

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895  
FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

### 日本にはマキアヴェリの君主が必要 富山 和彦 (経営共創基盤グループ代表)

1. マキアヴェリの「君子論」を初めて読んだのは、約30年前に米スタンフォード大学のMBAコースに留学していたとき。その思想に通底するのは、リーダーに善意があるからといって国が繁栄するとは限らないということ。だが、善良なリーダーになるよりも、まず自らの権力をいかに機能させるかを考えよとマキアヴェリは言う。目的も手段も正しいことが理想だが、それが不可能なとき、手段の正しさは目的の正しさに劣後する。経営者でいえば、日立製作所で再建を担った川村隆氏がいい例で、「日立再生」という目的のために事業をどんどん切った。
2. それは新型コロナ関連の政府の企業支援策から見て取れる。すべての企業を救済しようと巨額の財政出動でばらまきをした。打撃を受けた企業の経営者は一息つけたかもしれないが、その結果として金利を上げられず、円の価値はどんどん下がっている。企業を潰さないことを政策の大義名分にすれば、産業の新陳代謝が起きずDXもGX (脱炭素化) も進まない。長い目で見れば全員が地獄へ向かう。
3. もっとも手段を選らばないからといって、つねに強権的に振る舞えばいいとは限らない。人事権の発動といったハードパワーは「ここぞ」というときに絞って行使すべきだ。濫用すれば嫌われてしまい、脅したりお金を渡したりしないと人は従わなくなる。力の維持や使い方には細心の注意を払う必要がある。

(参考:「週刊東洋経済」2022年12月10日号)

## ワンポイント経営アドバイス

### 会社を導く理念・ビジョンが首位

1. 先見性が1位。「週刊ダイヤモンド」1982年1月2日号の新春アンケートでは、「今後の経営者に求められる条件」との問いに、そう回答した現役経営者が最も多かった。2位以下には決断力、健康、実行力が続いた。一方で、「現代は不確実性の時代、誰も先見性は持てない」と語った経営者もいる。当時松下電器産業相談役だった松下幸之助である。但し、「一つの仕事を熱心にやれば予見できる」と付言した。
2. それから40年後の現在、現役社長はどう考えているのだろうか。1位は「会社を導く理念・ビジョン」だった。大手企業トップでは、キリンホールディングスの磯崎功典社長や、ニトリホールディングスの似鳥昭雄会長らがこの能力・資質を挙げ、回答者数の6割を占めた。2位は「決断力」、3位は「実行力」、4位は「先見性」5位は「戦略性」、以下「人材育成力」「組織マネジメント」「リスク対応力」が続いた。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2023年1月7日・14日号)

## 人事・労務について

### 創設60周年で世界も注目 (高専生)

1. 世界が欲しがらる「KOSEN」。かたや国内では「どこの専門？」と聞き返される「高専」。この奇妙なねじれに、日本を覆う学歴社会の分厚い暗雲とそこに差し込む光を同時に見る。15歳から5年間の早期専門教育を受けた多くの卒業生が、技術者として科学技術立国・日本の発展を支える一翼を担ってきた。昨今はさまざまな社会課題に技術で挑む高専生の活躍はまさに飛ぶ鳥を落とす勢いだ。
2. 弱冠20歳で即戦力となり、同学年の大学院卒が入社する4年後には新入社員を指導するほどの力量となっている。しかし、給与は大抵、院卒の初任給が上回る。また、有名企業からの求人も事業所単位の採用で、本社採用ではないことが多い。給与や昇進、勤務地などの処遇等に不満を抱く高専卒業生も少なくない。日本が科学技術立国で復活するためには、高専人材の価値を再考すべきである。

(参考:「Wedge」2022年12月号)

## 古典に学ぶ

### 自分の志を貫いた空海という言葉

1. 危険を冒してまで唐に渡り、自分の志を貫いた空海という言葉は、迷いから抜け出し、前進する力を与えてくれます。
2. 今まで多くの先人たちが空海という言葉が持つ力に助けられてきました。今度はあなたがその力を使い、自らの人生を築いていく番です。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす 言葉」):河出書房新社